夜間学校

発行 釜ヶ崎 夜間学校
西成区萩の茶屋二-八-十八
喜望の家 気付
でんわ 六四七-三九四六
木曜夜 7じ～9じ

1982度
第1期4月～6月
テーマ「ピンハネ」

6月のテーマは
『歴史』
今夜はその1

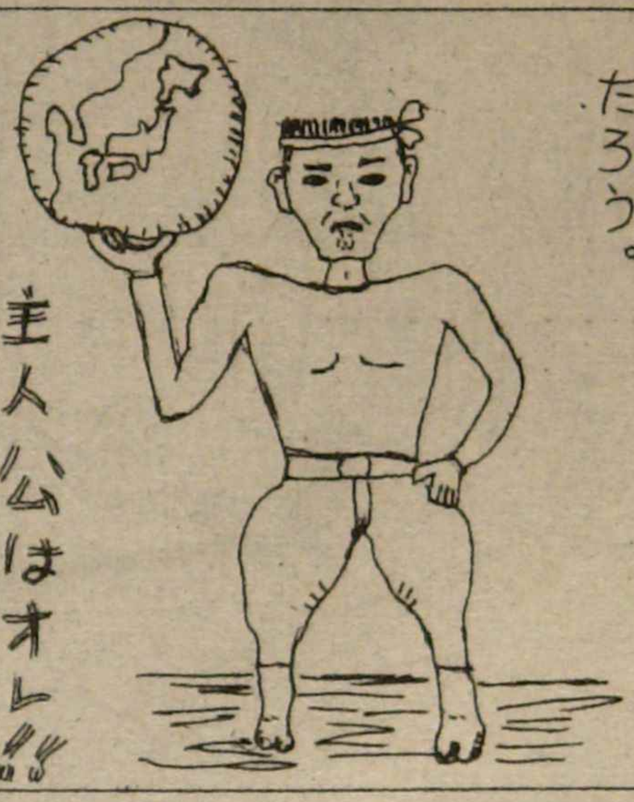
＝今夜7時より『喜望の家』にて＝

私達の生を軸に歴史の見直しを

吉川弘文館の「入門日本史」という本に、最初に出てくる個人名は"卑弥呼(ひみこ)"で、一番最後に出ているのは"佐藤栄作"だ。この二人の間にはざっと一千八百年の時代の流れがあり、その説明に七、八百名が登場する。卑弥呼も佐藤栄作も、支配者で、その他の八百名の人物も、多くは支配層に属する人達だ。

あたりまえのことだが、この名前の伝わっている人達だけで日本の歴史が積み重ねられてきたわけではない。

いかに大西郷とはいえ、江戸の封建制(ほうけんせい)に見切りをつけ"日本国のよなおりはえじゃないか、ほうねんおどりはお目出たい、おかげまいりすりゃえじゃないか"と何十万もの数でデモした庶民(しょみん)の裏付けがなければ、ああもやすやすと倒幕(とうばく)を達成することは難しかったろう。



ところで、私達は、日本の歴史、あるいは世界の歴史とどのような関係にあるのか。

釜の労働者は、歴史をつくることができるか、今、歴史に参加しているだろうか。

各人各様に、生まれたその日から今日まで、それぞれの歴史(個人史)をつくって生きている。各個人はそれぞれの歴史の主人公だ。

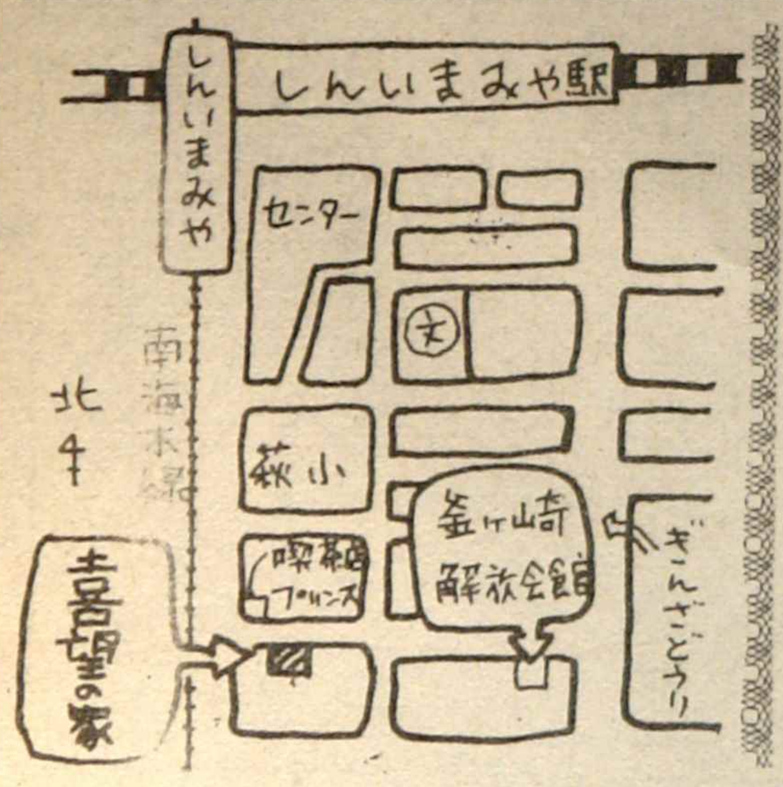
そして大きな世の流れ、現代史の中で生きている。

"釜へ流れて"あるいは"おちて"きたと位置づけられる私達は、歴史の表層から遠(とお)くへだたったものとされている。

社会を実際に支えてきた人々を無視した歴史は、私達の生をピンハネした歴史だ。アンコ、歴史の表層へ!

お知らせ

◎夜間学校文集をつくろう!!
小説・詩・俳句・短歌などなんでも書いて下さい。



【一期 第八回報告】

病院の実態を明らかにしよう

と、医療でのピンハネのまとめ

五月は、医療でのピンハネをテーマに、4回やってきました。

1回め（6日）病気という言葉から思い浮ぶことは？（参加者11人）

2回め（13日）病気になったらどうするか？（参加者14人）

3回め（20日）市更相の問題（16人）

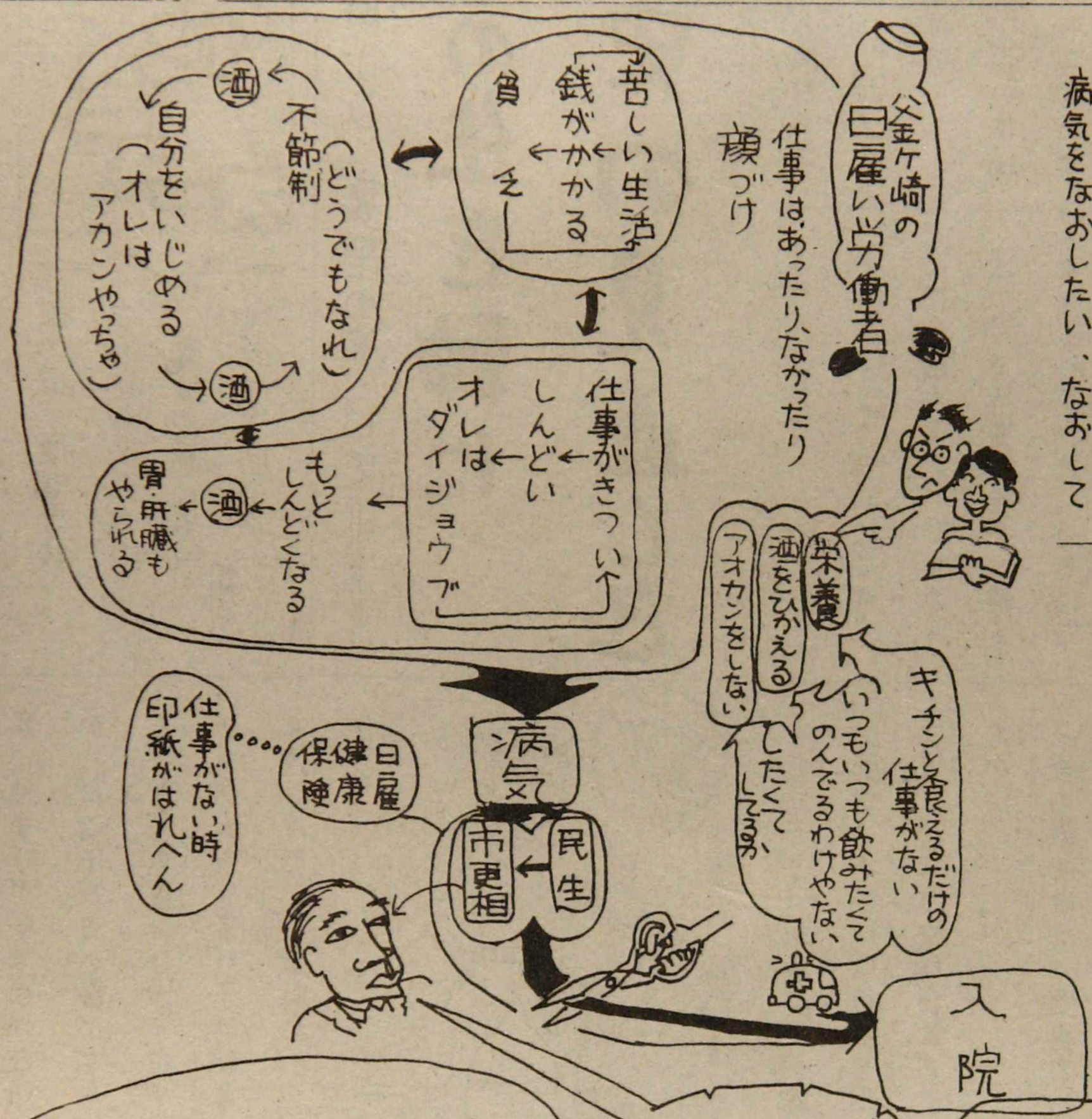
4回め（27日）病院の問題（13人）

釜ケ崎の病気の問題は、下の図のようになると思います。

病気になって、入院するとなると、市更相→病院と、カッチリ、コースが決められていて、『イヤやったら、出ていけ！』になっている。

「どうすればいいか」となると、こう聞かれても、目の前に、大きな壁があるみたいに、さきが見えてこない。

病気をなおしたい、なおして元気に働きたい。こういう気持ちが、そのまま実現できる社会をつくっていくために、まだ見えてきていない〝なにか〟を、多くの人といっしょに、つかんでいきたいと思います。



たいがい重い病気
ケンサ
薬 ⇐ 点数が多いと金になる
少しよくなってくると検査や薬がへってくる
⇐
ベッドふさぎ
⇐
出て行け（なおりきらないうちに退院）
⇐
新しい患者

○やる気ない。
○なんでもっと早よこないんや。
○権利、権利、いうけど義務やってへんやないか！

○市更相に行くんは、病気がなおしたいからや。
○人間と思ってない。
ボロクソ言われる。
○アタマにくることばっかり言う
―アタマに来たら、〝出てけ〟やー
○「義務（ギム）、義務（ギム）」いうけど、やりたくても、できない、いろいろな事情がある。